

山行報告書

|  |  |               |             |
|--|--|---------------|-------------|
| 通算山行NO   | NO・167S  | 報告者           | 後藤隆徳        |
| 年月日  | '99年12月04日(土)～ 年月日( )  |               |             |
| 山行名  | 冬山訓練・2   |               |             |
| 山名   | 富士山(御殿場口)  | 天候            | 晴れ          |
| この山のセールスポイント   | 吹きすさぶ烈風とアイスバーン!  |               |             |
| コース及び<br>タイム   | 12/3 下土狩 18:30→2合目(泊)<br>/14 起床 3:30/4:45～測候所小屋 6:20～9合目11:00～頂上12:15/12:45<br>～2合目15:30<br>(参考・一昨年は剣ヶ峰まで6H55'。今年は強風のため遅れ7H30'だった) |               |             |
| 標高差  | △S 2合目～T御殿場口頂上 ≒ 2,290m<br>▼T ≒ 1,440m G ≒ 3,730m ≒ m  | 体力度           | 1・2・3・4・5・⑥ |
| 走行距離   | ～ ≒ km   | 技術度           | 1・2・3・4・5・⑥ |
|  |  | 展望度           | 1・2・3・4・5・⑥ |
| 参加者役割  | CL 後藤 隆徳 52  | 最上級(第6級)の山ダ   | 宝永山隊        |
|  | SL 加藤 秀子 50  | 前回のリベンジだった    | 山本正昭 50     |
|  | 大根田元男 63   | いつ登っても厳しい山だ   |             |
|  | 高岡八千代 62   | 本当! スゴイ山。満足です | 後藤歌子 55     |
|  | 山本 勝己 32   | 〇〇ちゃんと一緒に登った  |             |
| <p>風が吹く吹く～ヤケに吹きやがると、風に向かって進みたくなるのサ～、と昔歌ったのは故 石原裕次郎(この歌ご存知の方かなり古い)だった。が、とにかくこの日の風はすさまじかった。風が吹けば吹く程快感を得て頂きに向かうのは山屋の本能だったのだろうか・・・。</p> <p>富士山御殿場口2合目から頂上は日本一の標高差を誇る。因みに2合目～剣ヶ峰=2336m、第二は馬場島～剣岳=2238m、第三は竹宇～甲斐駒=2165m、第四は上高地～奥穂=1960mだ。ここを毎年この時期に登る意義は何か?強いて言えばこの「超標高差」を『今年も果たして登れるか』を試しに来ることか。此処を往復できれば来年一年間「心・技・体」は保証される。その「証」が欲しいのか・・・。山屋とは常に己を最上級の山に晒したいものなのか・・・。</p> <p>早朝起床はキツイので今回は前夜発で2合目に泊まった。21時半に就寝し、翌3時半に起床したが心身共に爽やかだった。朝発ちの山本(勝)が合流して出発。相当風が強い。宝永の大斜面のブル道は一気登りなのでジグザグの登山道を忠実に行く。宝永山に登る後発の山本(正)、後藤(歌)に無線を入れると1時間程登ったとのこと。</p> |  |               |             |

2合目ニ1440m

宝永下に今時珍しい「ウィンパー型」(注・1)の黄色のテントがあった。下山後、歌チャンネルに聞いたら〇〇大学山岳部とのことだった。私は片山氏に借りたビデオを回す。7合から9合にキツイ登りにかかる。大根田・山本が遅れ出す。確かに後でビデオを見たら、大根田の足は上がっていなかった。が・・・然し彼は今年何と63歳と11ヶ月!なのだ。頭が下がる思いである。それに比べて若い連中はどうしたことか。9合から加藤・高岡・私の3名で先行。いよいよ風は凄く山全体が咆哮している。間欠的に突風が容赦なく襲う。この辺りには測候所員の冬山用の「手摺り」があるので助かる。「手摺り」がなければ、この風ではとても無理である。

御殿場口の頂上に達した。西風が東風が変わる。ヨロけて「手摺り」に飛ばされる。剣ヶ峰は危険なので今日は此处までとする。一昨年不調で登れず、今回雪辱を果たした加藤、やはり62歳で信じられない登りを見せるスーパー姐御の高岡とガッチリ握手。30分休憩して下山。直下で山本に会う。一人で頂上に向かう。更にその下の風除け「トーチカ」で大根田と合流。増々強くなったブリザートのなか下る。小石が飛び頭に当たる。振り返れば我々を十二分にもて遊んだ富士山は何事も無かったように雪煙を上げていた。今年も終わった・・・。

注・1 ウィンパー=エドワード・ウィンパー(英)マッターホルン初登頂(1865年)彼が考案した合掌形テント

